

個の確立を

法学部長 山本敬三

卒業生の皆さん、卒業おめでとう。
君の大学生活はどうだっただろうか。

ルース・ベネディクトは日本文化をさして「恥の文化」といつている。日本人はたえず世間体と他人の目を気にしている。世間の人から後指さされると恥ずかしいから世間と同じことをする文化の中に生きていくからであるという。要するに「個」が確立されていなかったのである。

大学でも精神的に一人前に独立していかないような学生を多くみかける。そしてそれは年々増えているようである。自分の確固たる意志をもつことなく、「みんなが大学へ行くから」とただなんとなく入ってきている。大学生活はそれでもなんとか無事に送ることができるとであろう。

しかし今、君は卒業を迎えている。激動する社会へ船出ししなければならぬ。昨今は「寄らば大樹の蔭」と大きな企業に就職する者が多い。しかし大企業といえども最早安全ではない。状況は目まぐるしく移り変っている。超大国ソ連があつという間に消えてしまう時代である。自己をもたずみんなの後ろについていつたら何処に行くかわからない。価値観も多様化している。広い視野に立って個を確立することが何よりも必要であろう。

ルターの有名な言葉「われここに立つ、他はなし能わず」を贈りたい。君の御健闘を祈る。

**いま、企業倫理の欠如が大きな問題
となつている。自主性を確立し、
善悪のけじめを大切にしよう**

経済学部長 砂川良和

本日めでたく卒業を迎えられた皆様方に心からお祝いを申し上げます。長年にわたる勉学の成果が実り、大学卒業という人生の大きな節目を迎え感慨もまたひとしおのことと拝察する。

ところで最近、さまざまな分野で倫理の欠如が大きな問題となつている。そのなかで皆様方にとっては、企業倫理欠如の問題がとりわけ切実な問題であろう。というのも皆様方の大多数は、これから企業というメカニズムの中で、しかも歯車の一員として生涯行動していかなければならないという現実があるからである。それゆえ皆様方は否応なく、企業倫理欠如の問題に真正面から立向っていかなければならないのである。激しい競争と利益中心主義という企業経営環境のもとで、どれほど自らの主体性の確立と、心の自由の確保が可能であるか。むずかしい問題ではある。しかし、いずれにしても自らの行動には、自らが責任を負わなければならぬし、また負わされるはずである。その意味では、今日ほど個々人の生活信条、生活上の価値観が問われている時代はないといえる。自らが善悪のけじめを大切に生きていくことが、結果的に企業のためであり、ひいては社会のためでもあるということを銘記すべきである。

新しく実社会に旅立たれる皆様、それぞれの生活を大切にされ、健康で幸せな日々を過ごされますよう心からお祈り申し上げます。